

スクープ!

福島第一原発事故のあと 大人の甲状腺がんが増えていた

福島県で増えているのは「小児甲状腺がん」だけではなかった。国の「全国がん登録」データを検証したところ、新事実が次々と判明。福島県当局による早急な実態調査が望まれる。

明石昇二郎

きっかけは、小児甲状腺がんの娘を持つ福島県中通り地方在住の女性の証言だった。

「福島県立医科大学附属病院を受診するたびに、甲状腺の患者が増えてきているような気がするんです。最近では、若い子だけでなく大人の患者も目につくんですね」

彼女の娘は福島第一原発事故発生時、18歳未満の学生で、同原発事故後の「県民健康調査」に基づく甲状腺検査で甲状腺がんが見つかった。今年3月末現在、小児甲状腺がん、またはその疑いがある子どもの合計は172人になっている。今年9月には、県立医大に甲状腺がん治療を目的とした新施設も完成する予定だ。

だが甲状腺がんは、子どもに限った病気ではない。ついに福島県の大人たちの間でも、甲状腺がん増加の兆しが現れたのか。



写真上/「県民健康調査」検討委員会を開いている福島県。(撮影/明石昇二郎) 右/星北斗座長は甲状腺がんの増加を知っているのか。(提供/共同)

「グ集計」データを使い、福島県における甲状腺がん罹患率を、5歳ごとの年齢階級別に検証してみた。

現在入手可能な最新のデータは、4年前の2012年分。13年分以降が公表されるまでにはしばらく時間がかかる見込みのため、手始めに08年から12年までの5年

間のデータを精査した。その結果が、左ページの表である。12年の欄を見てほしい。太ゴシックで強調してあるのは、11年以前と比べて12年のデータが際立って増えている年齢階級だ。

以前は大変少なかった

若年層での甲状腺がんの増加は、症状が何も出ていない人にも範囲を広げて甲状腺検査を行なうことによって、がんの発見率が高まる。「スクリーニング効果」によるものだと、これまで説明されてきた。

しかし、甲状腺検査の対象外である20歳以上の年齢階級でも甲状腺

腺がんが増加しているとすると、「スクリーニング効果」では説明がつかない。さらに検証を進めることにした。

日本全体の年齢階級別「甲状腺がん」罹患率は、人口10万人当たり何人発症しているかという「人数」で表わされる。それと同じ割合で福島県でも甲状腺がんが発症していると仮定して、実際の罹患率と比較する検証方法がある。疫学の専門用語で「標準化罹患率比」(標準化発生率比ともいう。略称はSIR)というものだ。全国平均を100として、それより高ければ全国平均以上、低ければ全国平均以下を意味する。

08年から12年までのSIRを計算してみた結果は、次のとおり。

	08年男	09年男	10年男	11年男	12年男	08年女	09年女	10年女	11年女	12年女
福島県罹患数	31	43	39	49		93	104	100	110	164
SIR	62.2	75.0	69.0	89.9		65.8	66.3	64.9	68.2	100.1

平均を上回ってしまっている。福島県は自ら検証を

この事態を、福島県当局はどうとらえているのか。

同県保健福祉部・地域医療課によれば、甲状腺がんが想定以上に増え過ぎ、県内に九つある「がん診療連携拠点病院」だけでは対処できなくなるような、非常事態は発生していないとのこと。現時点で何らかの対策を講じることが考えていなかった。ただ、県立医大に甲状腺がん治療の新施設が完成することも「知らない」のだという。

同課の平課長は語る。「2011年は震災のため、病院で検査を受けられなかった人も多く、そんな人たちの分まで12年のデータが取り込んだ結果、増えたように見えるのではないかと」

ここから明らかになるのは、福島県はもとも、全国平均と比べて甲状腺がんの罹患率が大変低い県だったという事実だ。それが福島第一原発事故の翌年に、一足飛びに全国平均に近づいていた。福島県の女性に至っては、わずかではあるものの、すでに全国

甲状腺がんは発症率が低い

「全国がん罹患モニタリング集計」によると、2012年の日本における甲状腺がん患者数は、男3348人、女9578人で計1万2926人。がん全体に占める割合は1.5%に過ぎないという。

同年の年齢調整罹患率(=発症率)は人口10万人当たり7.5人。膀胱がん(同6.9人)、白血病(同6.3人)といった珍しいがんと同程度の発症率だ。ポピュラーな胃がん(同48.2人)や大腸がん(同52.1人)と比べると、いかに甲状腺がんが少ないかわかるだろう。(明石昇二郎)

福島県の甲状腺がん「年齢階級別罹患率」(人口10万人あたり・人) 作成/明石昇二郎

	0-4歳	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85以上
2008年男	0	0	0	0	0	1.8	3	3.1	1.7	1.5	1.4	3.5	9	5.3	7.7	6.6	3.2	16.5
2009年男	0	0	0	1.9	2	0	0	6.7	1.5	5.6	8.4	9.8	8.3	11.8	10.9	6.1	0	0
2010年男	0	0	0	1.9	0	1.9	1.6	1.5	0	3.1	5.7	5	13.7	7.9	19.7	5.9	9.4	0
2011年男	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	1.7	3.0	3.2	1.7	2.9	3.9	6.9	7.3	11.8	4.4	23.4	4.3
2012年男	0	0	2	6.2	2.3	0	1.7	6	3.2	5	9	2.7	10.3	8.6	13.6	11.1	0	0
[参考] 2012年全国男	0	0.1	0.1	0.3	1.5	1.5	3.4	3.5	4.3	5.4	7.8	8.5	9.8	12.4	11.3	11.9	9.9	6.9
2008年女	0	0	0	0	0	5.5	4.8	14.2	8.3	9.1	11.2	18	7.7	20.7	16.8	14.2	9.7	2.1
2009年女	0	0	0	2.1	0	7.6	9.9	12.5	8.3	9.4	18.5	6.2	27.6	7.7	12.7	18.7	12.8	9.8
2010年女	0	0	0	0	0	9.7	8.5	4.7	10.1	1.6	8.7	18	19.7	17.7	16.1	18.8	12.7	9.2
2011年女	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5	2.0	3.5	12.5	11.4	8.4	17.8	13.3	19.2	22.4	14.7	14.1	16.2	8.5
2012年女	0	0	4.1	15.2	12	8.3	3.6	7.9	16.3	21.8	19.7	30.3	15.4	28.5	29.6	17.5	23.1	14.6
[参考] 2012年全国女	0	0	0.5	2.5	6.1	6.9	9.7	12.7	17	21.3	24.5	22.3	25.6	26.8	27.3	25.2	19	16.3

まで否定しようとする姿勢は、県民の「保健福祉」を預かる担当課として、いかがなものだろうか。

「13年のデータまで見てみないことには、何とも言えない」とも話していた。ならば、県が独自に「13年のデータ」やそれ以降のデータを調べてみればいいのか。

だが平課長にその考えはなく、あくまでも国(国立がん研究センター)の公表待ち、という姿勢だった。ちなみに、その「13年のデータ」が国から公表されるのは、およそ1年先の来年6月末頃になるとみられる。

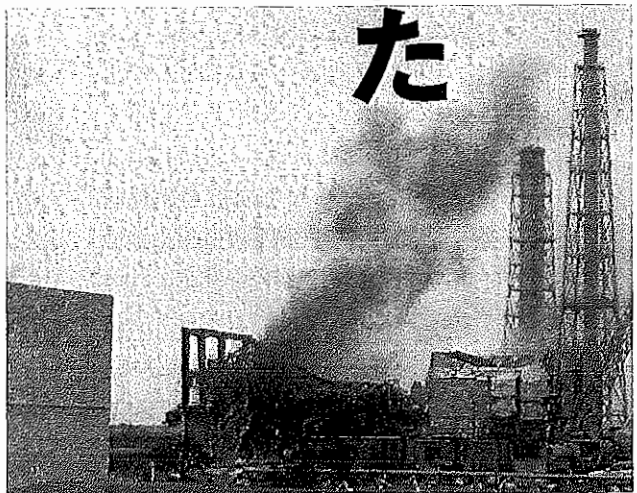
今回の検証結果は、疫学と因果推論などが専門の津田敏秀・岡山大学大学院教授にも見てもらった。津田教授は語る。

「私も検証しようと考えていたのですが、先にやられてしまいましたね(笑)。

チェルノブイリ原発事故でも、事故翌年の1987年から、スクリーニングをしていないのに大人の甲状腺がんが増加しているのです。その過剰発生数から考えるとむしろ、子どもより大人の甲状腺がんのアウトブレイク(大流行)を警戒すべきなのです」

福島県は国頼みにせず、自ら検証するよう要請したい。それができるのは福島県だけのだから。

あかし しょうじろう・ルポライター。



福島第一原発から大量の放射性物質が放出された。(提供/東京電力)